

クダケスタン・ジャポニ（イランの日本人幼稚園）③



進藤君枝

○イスファハンへの旅

テヘランの町の最南端のテヘラン駅から出発する夜汽車に揺られて、私はイスファハン（テヘランから約四二〇K南の古都）へ休暇のたびに旅立ちました。インド人の友人ピロー一家と過すためです。イスファハンまでは飛行機で一時間半、バスで七時間、汽車で十時間かかります。飛行機による移動ですと都市から都市

への移動でイランそのものを知ることができません。私はバスや汽車の旅が好きでした。旅の途中では多くの人々と出会えます。そしてたくさんの方のことを考え感ずることができのです。果てしなく続く赤土の土漠の中を走り続けますと、広大なる国土、激しく照り続ける太陽……その中で自然と戦いながら生きている人々の厳しさを感じ、日本のように狭い国土ですが、太陽と水に恵まれ豊かな実りの中で生活できること感謝せずにはおられません。一日に一本イスファハン行き汽車は夜出発します。九時近く

になりますと駅には荷物を両手にもてる限り手にしたチャドルの婦人とその一族が何組も押し寄せてきます。町から空港までのタクシーの料金でイスファハンまで行くことができます。発車の合図もなく夜汽車は出発します。乗務員がガラスの入れものに入った飲み水を配って歩きます。汽車は町をぬけ広大な何も無い土漠を走り続けます。テヘランの夜空は町の光があかるい為、星はあまりみられません。汽車の中からは無数の星がみられます。途中とまる駅の近くの民家の屋上では何かが動いています。雨の心配が全くない夏の間は戸外は絶好の睡眠の場なのです。ベットを持ち出したりゴザを敷いたりして屋上でねむるのです。十時間近く走り続けた汽車は前方に茶かっ色の山が連らなつた小さな小屋だけがたつたイスファハン駅に到着します。

イスファハンには美しいモスクがいくつもある古い都です。モスクの壁面は数色のモザイクのタイルがはりめぐらされ、イスラム教徒がひざまずき祈っている姿がみられます。

インド政府の派遣でイラン人に技術指導で来伊しているピロー一家は、毎回心良く私を受け入れてくれます。仕事で疲れ家族がこいしくなった時の私の安らぎの場がピロー家でした。

ピローのアメリカ人の友人が不思議な顔でピローたずねます。

「ピロー ミスキミエは英語もペルシャ語もしゃべれないではな

いか？ あなた達はなんの言葉で話しているの？」私の語学の力はその程度です。しかし言葉が十分通じ合えなくても心を通じ合うことができました。しかもっと私の語学力があつたならばピローの家庭で出会ったたくさんの国の人々友達になれ多くのことを語り合えたのではないかとくやまれてなりません。

○再びテヘランに戻って

二週間の一時帰国のつもりでいた日本滞在が六か月になってしまいました。その間にパーレビ王がテヘランの地を離れホメニ師がテヘラン入りをしました。私がイランを離れる時には全く予想がつかなかったことが起こりました。

一九七九年六月、ホメニ時代に入ったイランへ、任期を半年残す私は戻りました。日本の報道機関によるとテヘランの町には、一般の人々の手に相当数の武器が流れ、治安が乱れているといわれていました。

新しい時代に入ったイラン空港は、民兵によって嚴重にチェックがされ、外国人の入国に対しては、特に神経質になっているようです。以前は空港の入口、ホテル、銀行、学校商店の店先などあらゆる所にかかげられたパーレビ王の写真はとりはずされ、そ

のかわりにホメニ師の写真がかかっていました。空港から町までの道路には、焼き打ちのあとの残がいや紙くずの山、又壁には、カラスブルーでかかれた革命標語等で、町は何かうす汚れてしまったようです。メインストリートの旧パーレビ通りも華やかな女性の姿は影をひそめチャドルをつけた女性の姿が目立ちます。

外国人が多く住んでいたナフト地区は、外国人がひきあげ夜になって明りがつく家はほんのわずかでした。スーパーマーケットの店主は、日本人が戻ってきたことを喜び、「外国人に対しては何ら被害を及ぼすことはないのだから早く戻ってきて欲しいと言っていました。幼稚園は在園児が六名になってしまいました。運営面のことを考え今までの園舎をひき払い学校の一部を借りて保育を続けることになりました。三歳児二名、四歳児三名、五歳児一名の幼稚園がスタートしました。

ホメニ時代に入ったイランでの私達の日常生活はほとんど以前とかわりありません。しかし夜になりますと時折りどこかから銃声がひびいてきていました。町ではホメニ師を長とした革命警備隊が町を守っている為か治安は思っている程乱れていません。休日には今までは下町の方でしか見られなかったチャドルをつけた家族連れの姿が山の手の公園でも見られるようになりました。ナ

フト近辺には定期バスが通るようになり、乗用車乗り入れ禁止地区なども生まれ庶民の生活に重点がおかれた政策がでてきました。

パーレビ時代に使用されていた教科書は廃止され新しい教科書が出来上りました。男女共学も小学校から禁止され西洋化はあらゆる面で否定されイスラムの原点に戻った教育がよしとされるようになりました。

テレビ番組にも変化がはじめ西洋の音楽はなくなりむずかしい顔のイスラム僧がコーランを教える番組がふえはじめました。ペルシャ語ではイスラム僧のことをモッラーといいますが、急激にイスラム化されてゆくことに反発する人々は最近のテレビはテレビジョンではなくモッラービジョンだと嘆く人々もあらわれてきました。

学校のバスの運転手のガンバリーさんは敬けんなイスラム教徒でした。「ホメニになったらイランはすばらしい国になるよ、もうじきホメニが我々の為に家だつて用意してくれるのだから……。王様とホメニは違い貧しい人々の味方なのだから、誇らしげに語ってくれました。私は熱狂的歓迎でホメニ師を迎えた人々の言葉を聞くたびに不安でした。自分達は何ら努力をせずとも彼等は全てをホメニ師が変えてくれるのだと信じ切っているのです。

ホメニ師を迎え新しい国造りを期待していた人々の中にも余りにも急激なイスラム化についてゆけず自分達の予想していた新しい国造りとは違った方向に進んでゆくのではないかと疑問を持ち始める人々もはじめました。

混んとする世の中の動きが続いていた時、おもいがけないアメリカ大使館人質事件が起りました。ホメニ体制に対して疑問を持ちはじめた人々をも含めイラン全土が反米感情でわき上ってしまいました。すべてアメリカが悪いのだ、カーターが悪いのだという考え方なのです。幼稚園のヤゴおじさんに「広島であんなにアメリカにいじめられた日本なのに何故あんなアメリカと日本は仲良くするのだ。」と聞かれた時はなんと答えていいかわかりませんでした。ヤゴおじさんの知識からいうとヤマハ、ナショナル、東芝位しか日本のことについて知らないおじさんの口から広島という言葉がでたのですから……。

六名ではじまった幼稚園が三〇名になりました。日本人学校も四〇名位になりました。人質事件で経済活動もストップしたままの状態でしたので今後は日本人の減少はあっても増加はないだろうと考えられていました。

一九八〇年三月、第十回テヘラン日本人幼稚園の卒園式を無事終え日本から新しい園長を招く準備を整え私はテヘランの地をあ

とにしました。

一週間で終るのではないかと予想されていたイランとイラクの戦争でしたが、終結の予想もつかず混沌の度を増すばかりです。

国内問題も複雑な問題を山程かかえているようです。旧パレビ体制のもとで抑圧されていた人々が自分達の力でイスラム革命を成功させたのです。そのゆくえは今の段階では予想もつきません。大国や外部からの圧力ではなくイラン国民の手によって自分達の国作りをして欲しいと思います。

イスラムの世界で三年間生活してもわからない多くの問題が山程ありました。ホメニ師が豊かになりすぎた物質文明を否定しイスラムの原点に戻り精神文明の必要を重じたことを物があふれ大切なものが失なわれてゆく私達の生活の中で私達が考えてゆかなくてはならない問題をなげかけているような気がします。

一日も早くイランの国に平和が訪れるように祈らずにはおられません。

(丁)

